

頓珍漢素人俳壇

本学園の
学生・教職員の方々から
投句いただきました。

秋色のW杯 友情に変える ノーサイド
多聞

敷島の 道を歩くや 月の夜
楽葉

暗がりや 読書灯下の 鈴虫かな
朱鷺楓

寒蟬鳴く 菊茶の蒸気 読書の秋
傑作

淑やかな 画像に残す 秋の湖
清水

孝のため 薄紙包む 栗おこわ
陸郎

小路から 経の音聞こゆ 秋遍路
桜田

カレンダー 待ち遠しけり 月見の夜
粗品

敬老の 花を探して 三千元
湯島

弁慶草 見て思い出す 『勸進帳』
雀宙

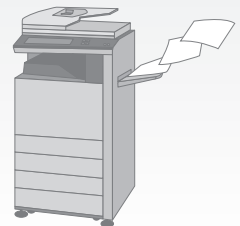
秋の名句

コピー機を

紙つぎつぎと

出る夜長

皆吉司



●俳句の説明

コピー機の存在しなかった時代は、ガリ版で刷るか書写が主流だった。しかし、コピー機のある現代は深夜ですら稼働できる。この句は、そんなコピー機の律義ぶりを称えたものである。

秋の
図書館を
詠む

この句と説明は
本学の所蔵資料
から

長谷川權 著

『麦の穂：四季のうた2008』

中央公論新社 2008

請求番号：911.04|Has

本館 レファレンス



炎暑が終わり、いよいよ勉強にも精が出る頃です（雀宙）